



BTCC “**新規口座開設限定**”

BTCC口座開設&入金で、最大**17500USDT**が獲得できる。
お友達を紹介するとさらにボーナスをプレゼント！

今すぐ口座開設/詳細はこちら

The banner features a blue background with yellow and white text. On the right, there is an illustration of two people standing next to a large yellow gift box with a blue ribbon. A small orange box with a white 'X' is also visible. The overall theme is a promotional offer for new account openings.

DAppsとは？分散型アプリの定義と活用事例を解説 | 用語集

原文:

<https://www.btcc.com/ja-JP/academy/crypto-basics/dapps>

DAppsとは？

DAppsとは、「Decentralized Applications」を省略した言葉で、一般的に日本語では分散型アプリケーションと呼ばれています。中央集権的な管理者がないことがDAppsの大きな特徴です。最も普及しているのがイーサリアムの[ブロックチェーン](#)で、ゲームや分散型取引所（DEX）などのアプリが開発されています。

分散型という名の通り、ブロックチェーン技術を利用することでシステム管理者が存在せずに可動させることができます。これまでのシステムは中央管理者が存在するタイプのものが多かったため、次世代のシステムといえるでしょう。

また、非中央集権的なDAppsは次世代のWebシステム「[Web3.0](#)」において重要な役割を担う可能性が高いといえます。不正行為に強く、システムダウンも発生しにくいDAppsの今後には要注目です。

DAppsは通常「ダップス」と読まれます。ブロックチェーン・[仮想通貨](#)関連の話題の中で頻繁に耳にするので、「ダップス」というワードを聞いたら分散型アプリケーションのことを示していると覚えておきましょう。

DAppsの定義・仕組み

特定のシステムがDAppsと呼ばれるようになるためには以下の条件を満たしていなければなりません。DAppsについて正確に理解するためにも、あらかじめしっかり確認しておきましょう。

1. オープンソースで開発されている
2. 中央管理者が存在しない
3. システムの変更、アップデートにユーザーの承認が必要
4. データの保持や通信にブロックチェーンを利用する

5. トークン(暗号資産)を保持し、そのトークンでユーザーに対する報酬が支払われる

DAppsの最大の特徴はデータの保持や記録にブロックチェーンを用いることです。これによって、中央管理者が不在でも正確なデータを記録することができ、不正行為への対策も行えます。

DAppsの活用事例

DAppsはさまざまな場面で活用されており、分散型取引所(DEX)やブロックチェーンゲーム(My Crypto Heroesなど)が有名です。

また、身近な所ではLINEもDAppsを利用していて、「LINE Token Economy」というものをリリースしています。その中でも2019年5月にサービスインした「4CAST」というDAppsは大きな話題を呼びました。

4CASTは「予測市場」をテーマにしたDAppsで、参加しているユーザーがさまざまなジャンルの予想問題を作り、他のユーザーが回答するというシンプルなものなのです。

これらの活動に対して「LINK Point」というトークンで報酬が支払われます。DAppsの活用事例の1つとして注目できるでしょう。

▪ DAppsゲーム

DAppsの活用事例として最も有名なものの1つがゲーム(ブロックチェーンゲーム)です。ブロックチェーン上で発行されたキャラクターやカードを集めるタイプのものが多く、レアなものは高値で取引されています。

EtheremonやMy Crypto Heroesなどが有名で、これらのゲームはイーサリアムのブロックチェーンを利用しています。これからもブロックチェーンゲームはさまざまなものがリリースされると予想されるので、ぜひ注目してみてください。

▪ DApps・仮想通貨

仮想通貨自体もDAppsの1つといえるでしょう。[ビットコイン](#)やイーサリアムなどの仮想通貨は、前述のDAppsの条件を満たしています。

また、DAppsの開発を目的とした[ICO](#)通貨の発行も活発なので、今後も新たな仮想通貨が登場するかもしれません。

リップルのように一部中央集権的な仮想通貨も存在していますが、多くの仮想通貨のシステムは非中央集権的でブロックチェーンを利用しているのでDAppsの一つとなっています。

▪ 分散型取引所(DEX)

DAppsの活用事例で忘れてはならないのが分散型取引所(DEX)です。分散型取引所は管理者不在で可動している取引所で、ブロックチェーンを利用してユーザー同士が直接仮想通貨のトレードを行います。

そのため、クラッキングされにくくセキュリティが高い・手数料を削減できる・サーバダウンが発生しないというさまざまなメリットが有る取引所といえるでしょう。

次世代の取引所として注目されているので、DAppsの活用事例として目が離せません！

【他の記事】

[ステラルーメン\(XLM\)とは？仮想通貨の特徴、将来性を解説！](#)

[ライトコイン\(LTC\)とは？特徴や将来性を解説！](#)

[ビットコインを無料でもらう方法5選！ | 暗号資産の稼ぐ方](#)

[DAOとは？ 5分でわかる分散型自律組織DAO | 用語集](#)

[暗号資産投資と株式投資、どちらがいい？](#)